

2026  
5月17日(日)  
PM1:00~4:30

申し込み不要

# 東京の日本語教育 を考えるつどい 2026

## 外国につながる子どもをめぐる 状況の変化と学びを考える

外国につながる子どもたちが激増しています。小中学校での日本語学級設置校も増加していますが、まだ十分とは言えません。2026年度の都立高校在京外国人等生徒対象入試では新たに5名定員が増加したものの、2倍近くの高倍率で251名もの不合格者が出ました。地域の支援団体でも増え続ける子どもたちに対応しきれず、受け入れを断らざるを得ない状況です。

さらに、排外主義が広がり、在留資格の厳格化や手数料の大幅値上げ、高校就学支援金の厳格化など、外国につながる家族や子どもたちの暮らしや学びが脅かされています。親の仕事や在留資格に大きく影響される「家族滞在」の在留資格をもつ未成年は都内に36,927人(2025年6月現在)で、全国の約1/4が東京に暮らしています。

このようなことから今年の「つどい」では、外国につながる子どもや家族を法的側面から支援している丸山弁護士をお招きし、在留資格の厳格化に伴い、外国につながる家族や子どもたちのおかれた現状や今後の見通しについて話していただきます。また、NPOでの現場からの声や当事者の体験発表で実情を共有します。

## プログラム

- 13:00-13:40 主催者あいさつ  
東京の外国につながる子どもたちの最新状況  
都議会議員ご挨拶
- 13:40-14:40 基調講演：「在留資格の厳格化に伴う外国につながる子どもたちの今」  
弁護士 丸山 由紀さん（弁護士法人あると）
- 休憩 -----
- 14:50-15:20 報告1：たぶんかフリースクールの取り組み  
栢木 典子さん（認定NPO法人 多文化共生センター東京）
- 15:20-15:50 体験発表「私・日本・そして、在留資格」Rさん  
10年前ネパールから来日し、都内の区立中学校の2年生に編入。高校・短期大学を経て 無事、就労。来日から現在までを振り返り、改めて決意すること。
- 15:50-16:20 全体討論
- 16:20-16:30 閉会あいさつ・アンケート回収

**場所** 東京しごとセンター 地下2階講堂

千代田区飯田橋 3-10-3

資料代:1000円(学生500円)

## 講師紹介

### 丸山由紀弁護士

長野県出身。音楽雑誌の編集者、行政書士を経て、2008年弁護士登録。日弁連の人権擁護委員会入管問題検討プロジェクトチーム副座長、移住連運営委員をつとめる。外国につながる家族や子どもの在留資格、国籍等の法律問題に携わる。共著に『外国人事件ビギナーズ』（いずれも現代人文社）など。

## 会場

### 東京しごとセンター 地下2階講堂

千代田区飯田橋 3-10-3



## アクセス

- 飯田橋から JR中央・総武線 東口徒歩7分  
東京メトロ東西線 A5出口 徒歩3分  
都営地下鉄大江戸線・東京メトロ有楽町線・南北線 A2出口 徒歩7分
- 水道橋から JR中央・総武線 西口 徒歩5分
- 九段下から 東京メトロ東西線 7番出口 徒歩8分  
東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄新宿線 3番出口 徒歩10分

## 呼びかけ人（敬称略・順不同）

小池由樹(CCS/世界の子どもと手をつなぐ学生の会)  
小林普子(NPO法人 みんなのおうち)  
関口明子(公益社団法人国際日本語普及協会 AJALT)  
田巻松雄(宇都宮大学名誉教授)  
新居みどり(ピナット子ども学習支援教室)  
野山広(国立国語研究所)  
栢木典子(認定NPO法人 多文化共生センター東京)  
李原翔(かながわあーすぶらざ外国人教育相談)  
中山真理子(NPO 多文化子ども自立支援センター)

## 主催

### 東京の日本語教育を考える会

 [tokyo-nihongo.sakura.ne.jp](http://tokyo-nihongo.sakura.ne.jp)

 [facebook.com/groups/1863680410514657](https://facebook.com/groups/1863680410514657)

代表:中山真理子 090-8103-7497